



祈りの戦士

「わたしは主を愛する。主は嘆き祈る声を聞き
わたしに耳を傾けてくださる。生涯、わたしは
主を呼ぼう。」 (詩編 116:1, 2, 新共同訳)



「わたしは主を愛する。主はわが声と、わが願いとを聞かれたからである。主はわたしに耳を傾けられたので、わたしは生きるかぎり主を呼びまつるであろう。」
(詩編 116:1, 2, 口語訳)



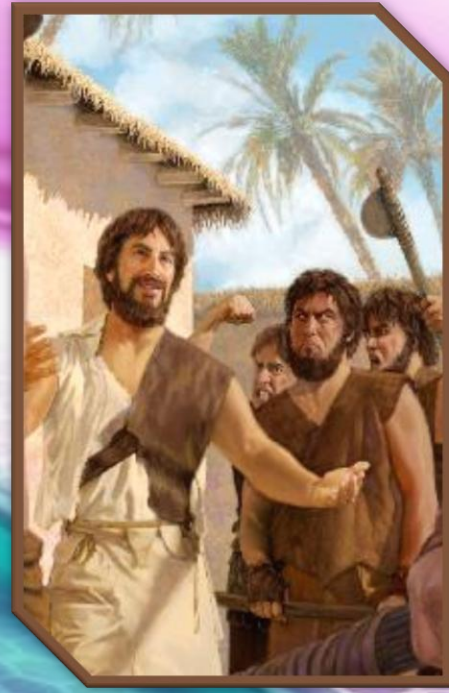


人間を含むすべての生き物は、互いに、そして神とコミュニケーションをとる能力を備えて、神によって創造されました。



残念ながら、アダムとエバが罪を犯したとき、人間は神と直接コミュニケーションをとる能力を失ってしまいました。

しかし、神は私たちに贈り物を残してくださいました。それは、私たちが神とコミュニケーションを取り続けられるようにしてくれる「電話」——つまり、祈りです。

ダニエル、エノク、そしてモーセは、この力強い賜物をどのように活用できるかを示す好例です。



ダニエル:

-  忠実なダニエル
-  祈りの姿勢





エノク:

-  エノクは歩み、語り合った



モーセ:

-  謙遜な指導者、モーセ
-  民のために執り成すモーセ



ダニエル

忠実なダニエル

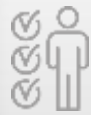
「わたしは主なる神を仰いで断食し、粗布をまとい、灰をかぶって祈りをささげ、嘆願した。」
(ダニエル 9:3)

神への信頼ゆえに、ダニエルは知恵と、夢を解き明かす力、そして知恵を授かった（ダニ 1:8、17、20）。彼自身や友人の命が危険にさらされたとき、彼は祈りをもって神にすがった（ダニ 2:17-23）。

祈りの生活を送った後、ダニエルはどのような資質を身につけたのでしょうか（ダニ6:3～5）。



良い管理者



誠実さ



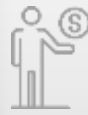
勤勉さ



燃え尽きない



信頼できる



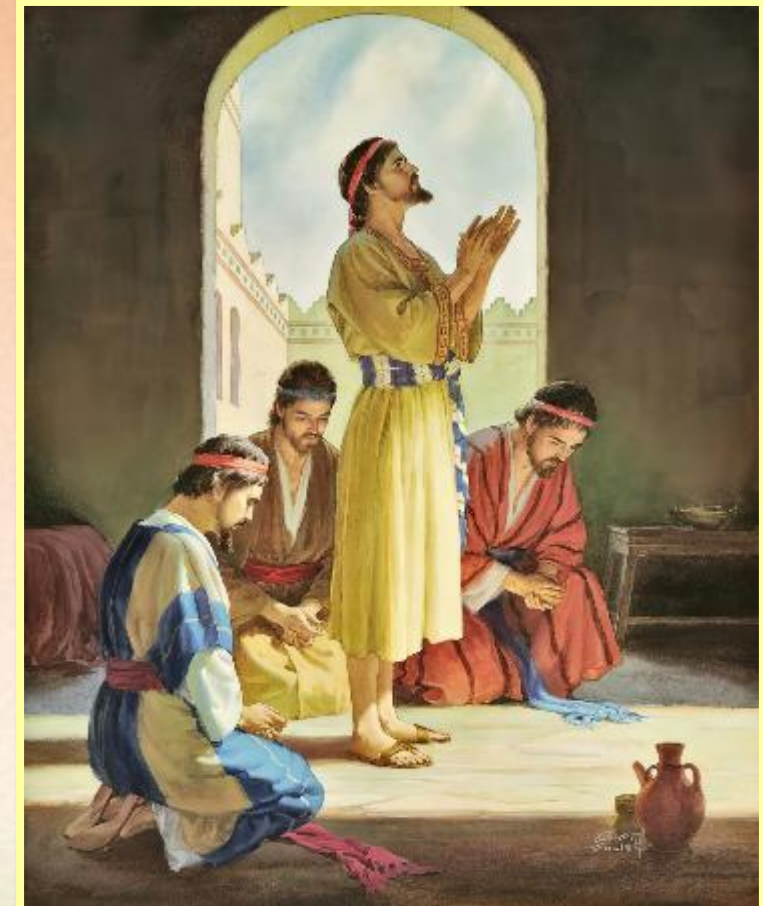
重んじられる



誠実で忠実な



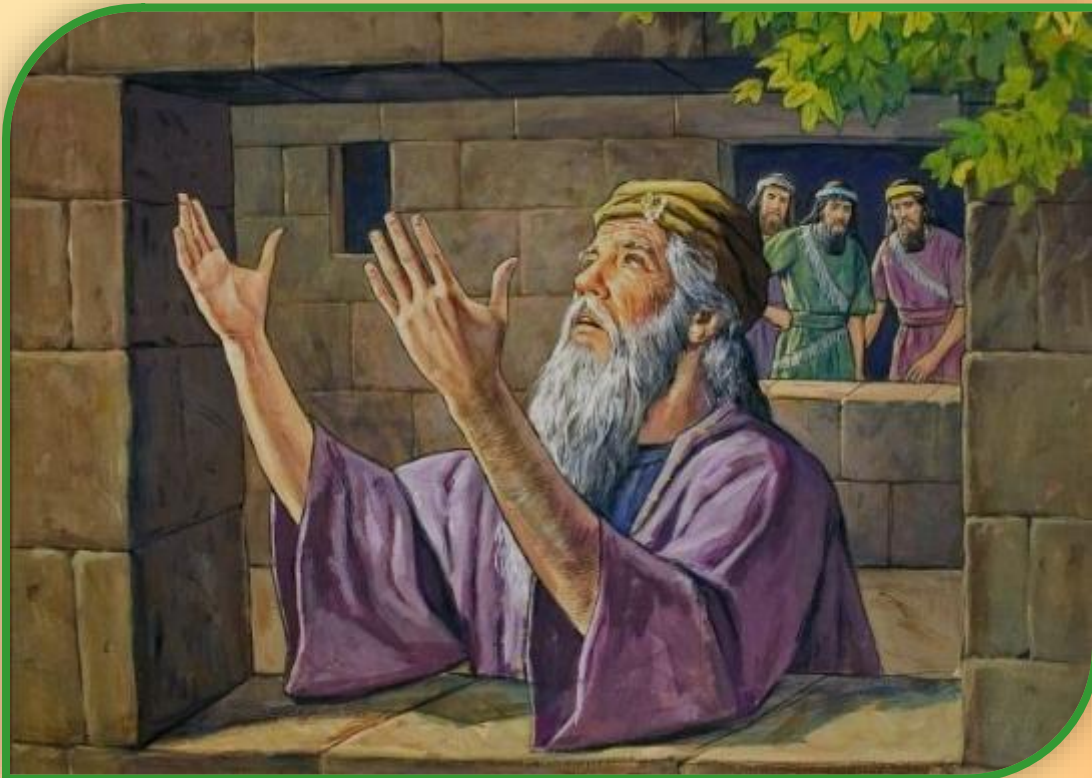
悪い習慣は一切なし



忠実なダニエル

「わたしは主なる神を仰いで断食し、粗布をまとい、灰をかぶって祈りをささげ、嘆願した。」
(ダニエル 9:3)

天はダニエルの祈りに耳を傾けていた（ダニ9:20-23、10:12）。この絆を断ち切ることによってのみ、敵は彼に危害を加えることができた（ダニ6:5-7）。この新たな死の脅威に直面しても、ダニエルは祈りの習慣を貫いた（ダニ6:10）：



彼は毎日欠かさず、一日
三回祈りを
捧げていた



予想通り、
エルサレムへ
と窓を開けた



彼には決まっ
た習慣があり、
ひざまずいて
祈っていた



感謝と祈り
に焦点を
当てた

このような話を踏まえると、
祈らないというあなたの言い訳は、
どれほど説得力に欠けるでしょうか。

祈りの姿勢

「ダニエルは王が禁令に署名したことを知っていたが、家に帰るといつものとおりに二階の部屋に上がり、エルサレムに向かって開かれた窓際にひざまずき、日に三度の祈りと賛美を自分の神にささげた。」(ダニエル 6:11)



目を閉じると祈りに集中しやすくなりますが、状況によってはそれができないこともあります（歩いている時や運転中など）。

重要なのは、私たちの祈りが、神にふさわしい敬意をもって捧げられることです。

祈るとき、私たちはまるで友人に話しかけるかのように神に語りかけます。しかし、神は私たちのような存在ではありません。神は宇宙の王なのです。

そのため、ダニエルは主を自分の主として認め、主の前にひざまずいて祈ることを習慣としていた。

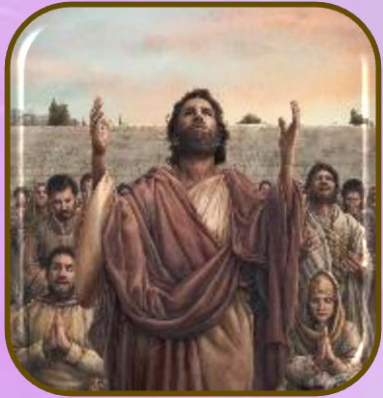
どのような状況でも、いつでも神に祈ることができるため、必ずしもそのように祈る必要はないし、またそうできるとは限らない。



祈りの姿勢

「ダニエルは王が禁令に署名したことを知っていたが、家に帰るといつものとおり二階の部屋に上がり、エルサレムに向かって開かれた窓際にひざまずき、日に三度の祈りと賛美を自分の神にささげた。」(ダニエル 6:11)

聖書には、それぞれの特別な状況に応じて、さまざまな方法で祈った人々の例が見られます。



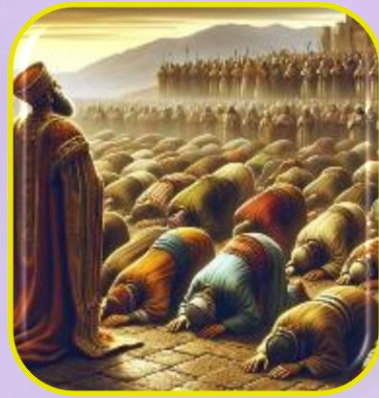
ヨシャファト
は民の前に
立って祈った
(歴下 20:5)



ダビデは神の
御前に座り、
感謝を献げた。
(2サム 7:18)



ソロモンはひざ
まずいて、両手
を天に差し伸べ
て祈った
(王上 8:54)



人々は地面
にひれ伏し
て祈った
(ネへ 8:6)



ダビデは床に
ひれ伏して
祈った
(王上 1:47)



ネヘミヤは立ち
上がり、王の前
で黙って祈った。
(ネへ 2:1-4)

私たちの立場がどうであれ、聖書は、絶えず (1テサ 5:17)、粘り強く (コロ 4:2)、そして常に (ロマ 12:12) 祈るよう私たちに促しています。

聖書は「絶えず祈りなさい」（I テサ**5:17**）
と勧めており、ひたすら祈ること（コロ**4:2**）
と耐え忍んで祈り続けること（ロマ**12:12**）が
求められています。

きょう、あなたが立っているとき、
座っているとき、横になっているとき、
歩いているとき、思いを神に向け、
友人として神に語りかけてみてください。
今すぐ始めてください。



エノケ

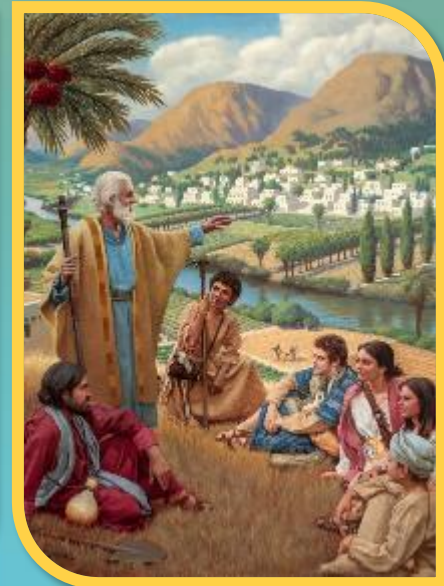
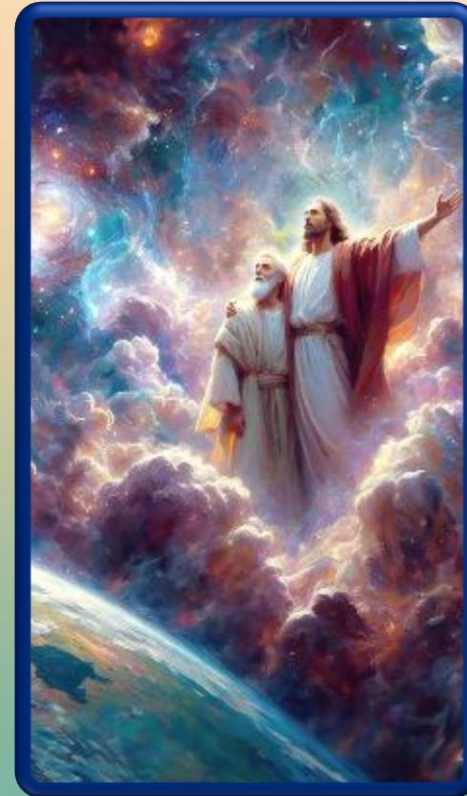
エノクは歩み、語り合った

「エノクは神と共に歩み、神が取られたのでいなくなった。」
(創世記 5:24)

エノクは、大洪水以前の人々の悪がますます増大していた困難な時代に生きていました。息子が生まれたことで、彼の神に対する理解は深まり、神との交わりはさらに強まりました(創5:21-24)。

祈りは、その関係において重要な要素でした。彼の仕事が激務で緊急性を帯びるほど、彼の祈りはより頻繁で熱心なものとなりました。時には、神との交わりを深めるために人里離れた場所へ引きこもることもありました。しかし、彼は常に人々の元へ戻り、神についての知識を彼らと分かち合いました。

神は、日々の喧騒の中でも、静寂の中での祈りの中でも、私たちの声を聞いてくださいます。神が私たちを見聞きできない場所は、この世にどこにもありません。私たちは言葉で祈りを捧げることもできますし、沈黙の中で祈ることもできます(沈黙は心の内を表現するのに役立ちます)。大切なのは、祈りを通して神との対話を決してやめないことです。



今日一日を過ごす中で、あなたはどこで、
どのようにして、イエスと交わりながら
祈りをささげますか。



五二七

謙遜な指導者モーセ

「イスラエルには、再びモーセのような預言者は現れなかった。主が顔と顔を合わせて彼を選び出されたのは、」
(申命記34:10)

シナイ山から神の声が聞こえると、イスラエルの民は、その声によって死んでしまうのではないかと恐れたため、二度と直接自分たちに語りかけないよう神に願った（出20:18-19）。



しかし、神と顔を合わせて語り合ったモーセの場合はそうではなかった（申34:10）。40年間（燃える荊棘の出来事から死に至るまで）、モーセと神は定期的に直接対話を行っていた（出33:9-11）。



聖書には、神がモーセに幕屋の建設に関する具体的な指示を与え、さまざまな律法を伝えた40日間の期間がいくつか記されています。こうした対話の中で、モーセは民のためにとりなしも行いました。



私たちは神と直接顔を合わせて話すことはできませんが、祈りによって神と直接心を通わせることができるため、その隔たりを埋めてくれるのです。

マタイ **5:44** とコロサイ **3:13** を読んでください。
ここで教えられていることを行うには
どうすればよいのでしょうか。
なぜそうすることが重要なのでしょうか。

民のために執り成すモーセ

「アロンに対しても、主は激しく怒って滅ぼそうとされたが、わたしはそのとき、アロンのためにも祈った。」(申 9:20)

とりなしの祈りとは、他の人々のために祈ることです
(ヤコ5:16、マタ5:44、1テモ2:1-4)。

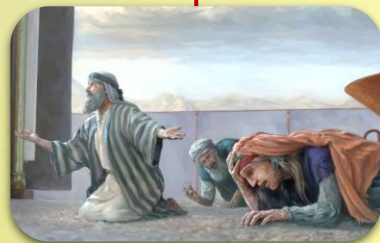
モーセは、さまざまな場面で、またさまざまな理由から、他の人々のために神に執り成しました：

★ 家族のために

★ 人々のために



* アロンの
罪のゆえに
(申 9:20)



* ミリアムの
不平のゆえに
(民 12:10-13)



* 彼らが喉が渴
いたとき
(出 15:24-25)



* 彼らが飢え
たとき
(民 11:11-13)



* 彼らが罪を
犯したとき
(出 32:30-32)

モーセは、どのような動機から他者のために祈ったのでしょうか。

私たちを突き動かすものは、同じであるべきだ。それは、私たちが祈りを捧げる人々への愛である。

今、あなたの執り成しの祈りを
必しているのは誰ですか。

今、あなたが祈るのを
妨げているものは何ですか。

「また、家族とともに祈らねばなりません。わけても、密室の祈りをおろそかにしてはなりません。これは、魂のいのちであるからです。祈りをおろそかにしていながら、魂の健全を願うことはできません。家族の祈り、また、公の祈りだけでは不十分です。人無きところに退いて、心を探られる神のみ前に心をすっきり開かねばなりません。密室の祈りは、祈りを聞かれる神にのみ聞かれるべきで、好奇心にかられて人が聞いたりすべきものではありません。密室の祈りでは、心は周囲の影響を受けたり、また、興奮したりすることもあります。静かにしかも熱心に、神に近づこうとします。その時かくれたことをご覧になり、心からの祈りに耳を傾けられる神より、うるわしく、永久的な感化が感じられるのです。」

EGホワイト(キリストへの道第11章祈りの特権)